

復命書

2010年5月18日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2010年5月15日(土)	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	第16期女性のための政治スクール 会場：剛堂会館(千代田区紀尾井町) 10回シリーズ 今回の大テーマ 『これからの日本はどうあるべきか・政治はどうすべきか』
	(2) 対 応 者	細川 佳代子 名誉校長(元総理夫人) 郡 和子 衆議院議員・金子 恵美 参議院議員 江端 貴子 衆議院議員・円 より子 参議院議員
3 目 的	例年、全国から参加の地方議員(男性含む)との情報交換も含めて、各回著名な方々のタイムリーな講義聴いて、政策立案や総括質問など議員活動に生かすために参加。経済・雇用・医療などの問題、その解決方法などを探っていければとの思いで参加します。もちろん、他のテーマや、議論の仕方など実践講義なども有意義だと思って参加します。	
4 内 容	(調査事項・調査結果を具体的に) 細川佳代子 氏 NPO法人 勇気の翼インクルージョン2015代表理事 19年前、知的障害(ダウン症)の智子ちゃんがスペシャルオリンピックに参加したのがきっかけで、二年後、たった一人のコーチと2名の参加者でオーストラリアの世界大会に参加した。スピードスケート10メートルの競技。この姿に感動。1993年3月、正式に日本スペシャルオリンピックスを立ち上げた。ボランティアをしっかりと評価できない日本社会、知的障害者に理	

解ない日本社会。この中で、支援金集めは大変なことだった。1年目1500万が自助努力で集められた。2005年長野で世界大会が開催できた。年間2億円かかる事業なので継続は大変だが続いている。すべて、ボランティアで運営されている。ノーマライゼーションではなく、インクルージョン(すべてあるものをそのまま受け入れる・包み込む社会)。その反対がエクスクルージョン(廃除の社会)ではない社会をつくる。10年後問われている。それぞれの人が助け合いの社会、普通に、共に学び、遊び、働けるのが当たり前の社会の実現に向けて、勇気の翼を背に皆で、頑張っている。会の名前に思いを込めている。人間の思い込み、人の概念を変えること、偏見を変えることは大変なことだ。凝り固まった大人ではなく、子供、若者の教育が大切なことだ。障害者と共に過ごす。中途半端ではなく、徹底的に仲良くする。授業ではできない。それはスポーツだと思う。地域で一人では、生きにくい。周りが理解して、サポートする。まず、関わるボランティアが変わる。皆優しくなり、人に役立った喜びを感じる。これこそ大事なことだ。ご存じだろうか?日本医科学工業(白墨製造の会社)の社員の7割がハンディを持った人。このことを参考に、社会のお荷物にならないように育てる・つまり納税者に育てていく社会をつくっていきたい。経験者の迫力?情熱のこもった講義だった。

パネルディスカッション

～議員としての仕事・女性としての役割～

パネライー

衆議院議員 郡 和子(宮城県第1区)

参議院議員 金子 恵美(福島県選出)

参議院議員 円 より子(全国比例)

コーディネーター

衆議院議員 江端 貴子(東京都第10区)

3年前に町議から国会議員になった金子氏、衆議院議員2期目の郡氏、4期目の参議院議員の円氏。それぞれの生い立ちや現在取り組んでいることなどが述べられた。初の町会議員だった金子氏。国の制度がこうだから仕方ありません。と理不尽なことをたくさん経験したという。企業で働き続けてきた郡氏。配偶者控除の事や選択制夫婦別姓に力を注いでいる。親を介護している江端

	<p>氏。介護保険の使いにくさを力説。財政に弱い女性の返上？の円氏。母体保護法（優生保護法）を当時者の視点で考え続けてきている。今だ、夫と子供 2 人の家庭は 3 割しかいないのに、これを標準家庭像としてすべての政策を考えていることの無理がある。18・3%削減の公共事業と 9・8%プラスの福祉部門。など政権政党になって行っている政策が皆さんに見えていない。たくさんの方の施策が進んでいることを、マスコミ報道にない内容を知っていただきたい。同一労働同一賃金の確立など、女性として理不尽と思う問題も取り上げていく必要があるが、女性だからではなくその人らしさが必要なのではないか。それにしても女性議員が少な過ぎる。クウオータ制も必要かも？政治の変換期・予算の組み替えが必要。政治主導の機能的動きがまだ見えない。女性関係の予算の使い方付け方など注視していかなければならない。</p> <p>フロアーからは、政権交代した実感がない。マニフェストは守られていない。派遣の状況や働く場がないなど厳しい生の声が続いた。その後参加者の 1 分間スピーチ。自己紹介などで締めくくられた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>このスクールから、これまで、国会議員 5 名、都道府県議員 7 名、自治体議員 100 名以上輩出している。松下政経塾に続く勢いではないだろうか？来年の統一地方選挙を目指しての参加者もいて、またまた増える状況だ。内容がいいこともあるが、地方の情報交換や、先輩議員の経験談はとても役立つことだ。16 期も期待できそうだ。今回も、議会での質問などのテーマを搜したい。細川氏の話には涙が流れた。自分自身出来ることを探し、静岡地区のスペシャルオリンピックの運営委員を引き受けた。他の市議、県議とともに、行政としても関わってもらえる部分を探していきたい。</p>